

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1-13-38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号

機構 04 - 134

電話番号 03-3332-3334

代表者氏名 加藤 正樹

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤 正樹	福祉	H0601051
	②	中野 航太	経営	H2001058
	③	伊瀬 卓	福祉	H1801008
	④	倉重 由美子	福祉	H2101004
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	玉川さくら保育園			
事業所連絡先	〒	194-0041		
	所在地	東京都町田市玉川学園3丁目35番48号		
	TEL	042-725-2066		
事業所代表者氏名	山岡 晃子			
契約日	2023 年 9 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 10 月 10 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 2 月 19 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年 10 月 13 日			
自己評価結果報告日	2024 年 2 月 19 日			
訪問調査日	2024 年 2 月 28 日			
評価合議日	2024 年 3 月 20 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めて頂くため、評価の全体像や具体例を用いたわかりやすい資料を作成し、丁寧に説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表によりわかりやすく報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>「将来、社会の一員としての円満な人格の形成を目的に、現在を生きる乳幼児の健康安全に努め、幸せを介助する」 ◎職員と保護者が連絡を密にし「保育所保育指針」に基づいて、各年齢や発達に応じた一人一人にふさわしい保育内容を実施する。 ◎保育園に関わる全ての人に対し、心のかもった福祉サービスを提供する。 ◎保護者に対しその意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性を生かして、その援助に当たる。 ◎地域に開かれた保育所を目指す。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>すべての子どもは、豊かな愛情の中で心身ともに健やかに育てられ、自ら伸びていく無限の可能性を持っています。子どもが現在(いま)を幸せに生活し、未来(あす)を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任をもって、自らの人間性の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重し、次の事を行います。 ◎子どもの育ちを支えます。 ◎保護者の子育てを支えます。 ◎子どもと子育てにやさしい社会を作ります。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>◎子どもの最善の利益の尊重 ◎子どもの発達補償 ◎保護者との協力 ◎プライバシーの保護 ◎チームワークと自己評価 ◎利用者の代弁 ◎地域の子育て支援 ◎専門職としての責務</p>

調査対象	調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。 [調査対象世帯数：58世帯(在園児70名)]		
調査方法	園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。		
利用者総数	70		
利用者家族総数(世帯)	58		
共通評価項目による調査対象者数	58		
共通評価項目による調査の有効回答者数	34		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	58.6		

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じいらっしゃいますか」との質問に対して、「大変満足」41.2%、「満足」41.2%、「大変満足」と「満足」を合わせて82.4%の回答率となっています。「どちらともいえない」8.8%、「不満」5.9%、「大変不満」0%、無回答が2.9%でした。個別設問では、問2「園活動への興味や関心を示し、学びや遊びを楽しんでいるか」について「はい」の回答率が97.1%で最も高く、問15「保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか」では「はい」の回答率が55.9%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	30	3	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の88.2%を占め、「どちらともいえない」が8.8%、「いいえ」が2.9%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	33	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の97.1%を占め、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	29	4	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の85.3%を占め、「どちらともいえない」が11.8%、「いいえ」が2.9%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	28	5	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の82.4%を占め、「どちらともいえない」が14.7%、「いいえ」が2.9%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、戸外活動について満足を示す声が多く寄せられました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	22	2	2	8
この項目では、「はい」と答えた方が全体の64.7%を占め、「どちらともいえない」が5.9%、「いいえ」が5.9%、「無回答+非該当」は23.5%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	24	8	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の70.6%を占め、「どちらともいえない」が23.5%、「いいえ」が5.9%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	30	4	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の88.2%を占め、「どちらともいえない」が11.8%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	24	5	5	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の70.6%を占め、「どちらともいえない」が14.7%、「いいえ」が14.7%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	27	7	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の79.4%を占め、「どちらともいえない」が20.6%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	30	2	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の88.2%を占め、「どちらともいえない」が5.9%、「いいえ」が5.9%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	31	2	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の91.2%を占め、「どちらともいえない」が5.9%、「いいえ」が2.9%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	20	6	4	4
この項目では、「はい」と答えた方が全体の58.8%を占め、「どちらともいえない」が17.6%、「いいえ」が11.8%、「無回答＋非該当」は11.8%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	30	2	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の88.2%を占め、「どちらともいえない」が5.9%、「いいえ」が5.9%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、園児に対する対応について改善を期待する声が複数寄せられました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	25	6	2	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の73.5%を占め、「どちらともいえない」が17.6%、「いいえ」が5.9%、「無回答＋非該当」は2.9%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	19	9	6	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の55.9%を占め、「どちらともいえない」が26.5%、「いいえ」が17.6%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、改善を期待する声が複数寄せられました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	21	10	1	2
この項目では、「はい」と答えた方が全体の61.8%を占め、「どちらともいえない」が29.4%、「いいえ」が2.9%、「無回答＋非該当」は5.9%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	27	2	3	2
この項目では、「はい」と答えた方が全体の79.4%を占め、「どちらともいえない」が5.9%、「いいえ」が8.8%、「無回答＋非該当」は5.9%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	理念や目標について、研修や保護者会などで職員・保護者に伝えています 園の保育目標を「のびのびと明るく元気な子ども・挨拶ができる子ども・身の回りのことを自分でできる子ども・よく物を見、よく考える子ども・自分も友だちも大切にできる子ども」と定めています。園のビジョン・理念について、職員の理解を深める取り組みとして、年度始めに読み合わせを行うとともに、新人については新任研修の中で説明しています。加えて、保護者に対して、入園のしおり(兼重要事項説明書)に記載するとともに、保護者会や入園説明会などで伝えています。	
	経営層は時間単位の年次有給休暇制度の導入など、働きやすい環境を整えています 園長は、職員の資質向上および意欲向上、地域の情報収集と関わりを最も重要な役割だと考えています。その役割と責任について、業務分掌に記載し、職員会議などで職員に伝えています。また、主任・事務員を園長のサポート役として配置しています。そして、経営層は事業所が目指していることの実現に向けて、内規の見直しや施設の修繕などに取り組んでいます。内規の見直しとして、子育て世代などの年次有給休暇制度を新たに導入するなど、職員が働きやすい環境を整えています。	
	園の重要な案件は職員会議などで検討し、保護者にも保護者会などで知らせています 法人の重要な案件を検討する場として、理事会・評議員会を設けています。また、園の重要な案件を検討する場として、職員会議・リーダー会議を設けています。最近、保護者に対して周知したサービス変更などの事例として、「重要事項説明書の見直しと変更」などがあります。そのような事例については、保護者会などで周知しています。そのほか、地域住民に対しては、修繕・工事・行事開催のお知らせについて、一軒ずつ書面を配布してお知らせしています。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者や職員のニーズはアンケートや面談などにより把握しています</p> <p>利用者のニーズは、行事後のアンケートなどや「パパ&ママのティータイム」により把握し、職員の情報提供用ボードで職員に伝えていきます。「パパ&ママのティータイム」は月1回開催し、保護者の相談なども受け付けています。その上で、近隣小学校などの行事を把握し、日程が重ならないように配慮しています。また、個人面談や日頃の対話などで職員の意向を把握しています。直近では職員休憩室の改修や、教材庫の見直しを行いました。</p> <p>職員間の情報共有・重要事項説明書の周知徹底を優先度が高い課題として捉えています</p> <p>地域の福祉のニーズは、市の園長会や健全育成委員会、地域の集い・会議への参加により把握しています。また、福祉事業全体の動向を把握するため、社会福祉協議会などのネットワークに参加しているほか、業界誌などを購読しています。園の予算と実績は園長が管理し、職員会議で職員に伝えていきます。以上のように事業環境を分析した結果、「職員間の情報共有」や、「重要事項説明書における保護者への周知徹底」を優先度が高い課題として捉えています。</p> <p>単年度の事業計画は、園長を中心に作成し、職員会議などで職員に周知しています</p> <p>長期の事業計画を理事長・園長を中心に作成しています。また、単年度の計画は、前年度1月頃に園長を中心に作成し、職員会議などで職員へ伝えていきます。計画には保育に加えて、子育て支援・研修・修繕・災害対策・保護者支援・地域連携などの項目ごとに内容が記されています。計画の進捗状況を職員会議や朝礼で職員へ伝えていきます。計画を見直す場合は、職員会議で検討し、園長・主任が中心となって判断しています。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

法令遵守に向けて就業規則や内規を整備するとともに、振り返りの機会を持っています

法人職員または保育職員として守るべき法や規則について、就業規則・職員内規を整備しています。職員内規には、休暇・遅刻・相談・欠勤・残業・身だしなみについて明記されています。関係書類は事務室に保管するとともに、園長・主任が折りにふれて説明しています。加えて、「自己評価」などで理解度を確認し、必要が認められた際は、園長による個人面談などにより支援しています。

苦情解決制度を整備し、重要事項説明書で保護者に伝えています

苦情があった際には、主任が受け付けし、園長が解決にあたっています。そのような体制や役割について重要事項説明書で保護者に伝えています。意見や要望があった際には、直接回答に努めています。職員の子どもに対する適切な関わり方について職員マニュアルに示すとともに、年度始めの職員会議で説明しています。虐待が疑われる事例が生じた際には、「子どもの虐待防止マニュアル」に沿って、市の子ども家庭支援センター・児童相談所などと連携し対応しています。また、虐待に関する職員の理解を深めるために市の研修に参加しています。

子育て支援として、親子体操・離乳食講座・お話会のほか、一時保育を実施しています

ボランティアなどを受け入れる際はマニュアルに沿って、主任が対応しています。ボランティアには、保育補助や制作材料の作成などの活動機会を用意しています。前年度には、ボランティアを2名、実習生を14名受け入れました。また、地域貢献の取り組みとして子育て支援事業「わいわい広場・さくらんぼ組（一時保育）」を実施しています。「わいわい広場」では、親子体操・ベビーマッサージ・離乳食講座・おしゃべり広場・ミニコンサート・お話し会・おもちゃの図書館などを企画し、ホームページ・園内掲示・市報などにより周知しています。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>感染症の発生時にはメールを活用し、保護者とスムーズな共有ができるようにしています</p> <p>運営に係るリスクとして、「災害・感染症の発生時の保護者との共有」「職員体制」などを挙げており、これらのリスクへの対策については、職員会議などで検討しています。各リスクに対して「一斉メールの活用、園内の感染状況の把握および対応」、「非常勤も含めたシフト作成」などの対策を打ち出しています。園には常勤職員に加えて非常勤職員も多く在籍しており、適切な人員配置になるようにシフトを作成・調整しています。</p> <p>地震・風水害・感染症を想定した事業継続計画を作成し、職員と保護者に周知しています</p> <p>災害や深刻な事故などに遭遇した場合に備え、首都直下型地震・風水害・感染症を想定した事業継続計画(BCP)を作成しています。復旧期間を2週間程度と定め、3日分の防災備蓄品を備えています。危機管理の方法やBCPの内容について、職員会議で職員に伝え、保護者会などで利用者に説明しています。事故・感染症・侵入・災害などが発生した際は、事故報告書・ヒヤリハット報告書・保健日誌などに記録しています。その上で発生要因を職員会議などで分析するとともに、再発防止策を一斉メールやおたよりにより利用者に報告しています。</p> <p>機密情報にはアクセス制限や閲覧制限を設け、適切な情報管理に努めています</p> <p>情報の収集・利用・保管・廃棄については、個人情報保護規程・就業規則で定めています。その内容については、入職時研修や年度初めの職員会議で説明し、理解を深めています。加えて、誓約書を取り交わして情報管理や文書管理の遵守を求めています。個人情報や機密性の高い情報を含む文書は、事務室内書棚などに保管し、事務室内のみ閲覧可、持ち出し禁止としています。また、電子データにはID・パスワードによるアクセス制限を設けています。なお、機密文書を破棄する際はシュレッダーもしくは業者に廃棄処理を委託しています。</p>		

5 職員と組織の能力向上			10/12
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(●●)
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

カテゴリー5の講評

安心して働き続けられるよう、互助会や宿舍借上制度のほか、親睦会を実施しています

職員の採用に際して、人柄・経験・健康状態・年齢などを重視しながら、ホームページや実習生受入校への求人を行うなど、求職者の応募を促しています。職員の評価は、「自己評価・研修計画」を参考にしながら、個人面談などにより行い、賞与に反映させています。また、職員が安心して働き続けられるように、市の勤労者互助会や宿舍借り上げ制度、親睦会などを福利厚生として取り入れています。今年度は、親睦会としてバスの日帰り旅行を企画し、ミカン狩りに行きました。職員の家族も参加することができ、園全体で親睦を図る良い機会になっています。

各クラスの取り組みをまとめた保育WEBを作成し、職員および保護者と共有しています

全職員対象の研修計画を事業計画に明示しています。研修は、夏季研修・新人研修・保健研修のほか、市の法人立保育園協会主催の研修やキャリアアップ研修などを活用しています。夏季研修については、職員自ら希望する研修を受講することができ、参加費を一部補助しています。また、職員一人ひとりの気づきや工夫を活かすために、月案会議などにおいて一人1回は発言をするように促しています。そのような取り組みの成果として、クラスごとに保育WEBを作成し、サービスの向上につなげています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度において、「職員の定着」を重要課題の一つと掲げていました。そのような課題に対して、有給休暇の取得向上・希望研修の受講推進・親睦会の開催に取り組みました。有休休暇については、全職員の取得状況を可視化することで、計画的に取得ができるようになりました。また、職員の希望する研修を受講できるようにし、やりがいの向上に努めました。加えて、コロナ禍では実施できていなかった親睦会(バス旅行)を再開し、職員同士のコミュニケーションを深める機会を持ちました。こうした取り組みにより、職員の退職が減少するようになりました。園ではおおむね目標を達成したと自己評価しています。今後も、継続して取り組む予定です。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員の定着に向けて、有給休暇の取得向上・希望研修の受講推進・親睦会の開催に取り組んでいます。有休休暇の取得状況を可視化したことにより、休暇の偏りがせず、運営に支障をきたすことなく、休みが取りやすくなりました。また、今年度からは、5大行事以外は有休の取得ができるようにするなど、職員が働きやすい職場づくりに努めています。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度において、「子育て支援の充実」を重要課題の一つと掲げていました。そのような課題に対して子育て広場事業に取り組みました。具体的な取り組みとして、看護師による熱中症・予防接種・冬のケアなどの講話や、毎月、「親子体操」や「作ってあそぼう」を開催しました。また、親子コンサートなども開催しました。なお、企画にあたっては、子育て支援担当者を配置し、ホームページや市の広報で告知をするようにしました。取り組みの結果、室内開放には1,000名以上、園庭開放には400名以上の参加がありました。園ではおおむね目標を達成したと自己評価しています。今年度も新たな事業を開催するなど、取り組みを充実させています。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

感染症の影響により、地域の子育て家庭の支援に取り組めない状況が続いていましたが、5類に移行したことを受けて、子育て支援に取り組むようになりました。看護師による講話や親子体操などを定期的に開催するとともに親子コンサートなども開催しました。実施前にホームページや市報を活用し、積極的にPRを行っています。こうした取り組みにより、沢山の方が参加するようになりました。また、利用者から園の利用につながるケースもあるなど、副次的な効果もみられています。多様な事業を実施するとともに、積極的にPRを行った点が評価されます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリー1の講評			
<p>園のリーフレットやホームページを通じて、保育理念・保育目標などを紹介しています</p> <p>園の情報を提供する媒体として、リーフレットを発行し、「法人概要・保育理念・基本方針・保育目標・施設概要・開園時間・申し込み方法・保育内容・年間行事予定」などを紹介しています。また、ホームページには、「保育の様子・行事カレンダー・保護者のページ・子育て広場・一時保育」などのコンテンツを設けています。なお、保護者のページは利用者のみ閲覧可能とし、日々の活動の様子を毎日更新しています。そのほか、利用希望者などの多様なニーズに配慮して、英語版の案内文を用意しています。</p> <p>市のホームページや子育てサイト、園の情報誌の配布により園情報を発信しています</p> <p>園の情報は、行政や関係機関などに提供し、市のホームページの子育てサイトのほか、市が発行する「入園のしおり」にも掲載されています。また、子育て支援センター・連携園の小規模保育室などの園外施設を通じて園の情報を地域に届けています。そのほか、市の「マイ保育園」制度に登録している地域の家庭に対して年4回、園の情報誌「わいわい通信」を配布しています。</p> <p>見学会を個別で行い、園の環境や保育内容についての特長を紹介しています</p> <p>見学者対応は、主に園長・主任が担当し見学会を開催しています。日時については希望者の都合に合わせていますが、活動の様子を見てもらいたいため午前中の時間帯を勧めています。見学者には、「園の行事や太鼓指導など特色がある保育を行っていること・わいわい広場や一時保育を行っていること」など園の特長について分かりやすく説明しています。そのほか、保育室の無料開放「わいわい広場」などでも保育の内容を紹介しています。</p>			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1		サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2		サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園前に説明会を行い、利用開始の準備について保護者に説明し、同意を得ています</p> <p>入園が決まった利用者には、重要事項説明書・児童票・食品調査書・健康カード・緊急連絡先調査書・お迎えに関する届出書・個人情報確認書などの書類を用意し、入園説明会前に渡しています。入園説明会は2月に開催し、全体会において重要事項説明書の内容を伝えていきます。その後クラスごとに分かれ持ち物などの説明をしたのち、個別面談を行っています。個別面談で把握した情報は保護者用アンケートに記録しています。プライバシーの保護については、個人情報に関する確認書で同意確認を得ています。</p> <p>親子とも安心して園生活に入れるよう子どもの様子を見ながら慣れ保育を行っています</p> <p>入園前に提出する児童票・アンケート・健康カードなどを基に、アレルギーや既往歴など子どもの健康状態を把握しています。入園前の状況については、入園説明会から入園日前日までの期間の記録提出を求めています。また、子どもの不安やストレスが軽減されるよう慣れ保育を行っています。慣れ保育の期間は特に定めず、子どもの様子や保護者の状況を踏まえて調整しています。その期間中には、子どもの様子を詳細に伝え、保護者に安心してもらえるようにしています。子どもに対しては、使い慣れたタオルなどの持ち込みを受け入れています。</p> <p>退園や転園をする際は、作品集やメッセージ付きの色紙をプレゼントしています</p> <p>卒園前に退園や転園をする園児には、在園中の制作物を綴った作品集のほか、担任からのメッセージや写真を添えた手づくりの色紙をプレゼントしています。また、転園先から問い合わせがあった場合には、保護者の同意を得た上で園児の情報を引き継いでいます。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録 サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 13/13

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

保護者と毎日連絡帳を取り交わし、子どもの情報を共有しています
子どもの心身状況や生活状況などを把握するため、保育日誌や成長記録の中に子ども一人ひとりの記録をしています。また、乳児は連絡帳を毎日保護者と取り交わし、子どもの情報を共有しています。幼児は必要に応じて、出席シール帳のメモ欄を活用しています。子どもの個別の保育目標については、月週案・個別月案・成長記録に記載するとともに、家庭の要望を児童票・面談記録に記入しています。それらの記録は、保育アプリにより管理しています。経過記録については、乳児は毎月、幼児は3カ月ごとに集約しながら記録しています。

全体的な計画を保護者に配布するとともに、個別の指導計画を個人面談で説明しています
「全体的な計画」を年度ごとに見直し、直近では「長時間保育」について更新しています。また、全体的な計画に基づき、年・月・週を単位として指導計画を作成しています。個別の指導計画は0・1・2歳児および、特別に配慮を要する子どもを対象に作成しています。保護者に対しては、全体的な計画を配布するとともに、個別の指導計画は個人面談の際に分かりやすく説明しています。

職員会議や朝礼などの各種会議を開催し、職員全体で情報を共有しています
職員間で子どもに関する情報を共有するため、月1回理事長・園長・主任・常勤職員が参加して職員会議を開催しています。加えて、乳児会議・幼児会議・月案会議・離乳食会議・献立会議なども定期的に開催しています。そのほか、毎朝10分程度の朝礼を行うとともに、朝礼ノートを活用し全職員で内容を共有しています。また、日々の子どもの様子や保護者の状況については、伝達表や保育アプリの職員連絡機能を活用して職員間で情報共有しています。子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、月案会議で事例を持ち寄り話し合う機会を設けています。

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>性差や子どもの羞恥心に配慮しつつ、着替える際の環境の確保に取り組んでいます 個人情報については、入園説明会の際にプライバシーポリシーを説明し、個人情報に関する確認書で同意確認を得ています。日頃の保育の中では子どもの羞恥心に配慮し、着替える際にはパーティションで目隠しをするとともに、3歳児クラスから男女に分かれて着替えを行っています。また、着脱時には全裸にならないよう指導しています。加えて、性別の違いを意識する取り組みとして、3歳児クラスから絵本を活用してプライベートゾーンの大切さを伝えています。そのほか、おむつ交換や着替えの際は他児からの視線が届かない場所で行っています。</p> <p>文化や生活習慣の違う保護者の考えを尊重し、個別に対応をしています 宗教や文化の違う保護者の考えを尊重し、お弁当の持ち込みを可能にするなど、要望に応じて個別に対応しています。また、基本的な登園時間は設定していますが、家庭の事情や子どもの生活リズムに配慮し、遅い時間の登園や習い事のための早退なども受け入れています。そのほかにも、苦手な食材や、日焼け止め・虫よけスプレーなどの扱いについても保護者と相談しながら個別に対応しています。そのような保護者の意向は、行事アンケート・個人面談・連絡帳により確認しています。</p> <p>園内研修に加えて、セルフチェックリストを活用し、振り返ることを促しています 虐待や育児困難などの事案については、こどもの虐待防止マニュアルに則って対応しています。また、虐待防止および適切な対応に備え、園内研修のほか、全国保育士会「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用し、職員自ら行動の振り返りを行っています。セルフチェックリストによる個人の振り返りののち、グループでディスカッションする時間を設けることで、園全体で虐待や不適切保育に対する意識を高めています。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>職員会議で保育理念などの読み合わせを行い、マニュアルの浸透を図っています</p> <p>業務の標準化を図るため、法人として運営規程・職員マニュアルを整備するとともに、園では独自にお散歩マップなどのマニュアルを作成しています。業務の実施状況については、主任が中心となり確認しています。あわせて、法人本部監事による内部監査を年1回実施しています。さらに、職員には「保育理念」「保育士倫理要綱」「保育の質と信頼感を高めるために」「法人内規」などを配布するとともに、職員会議での読み合わせを実施し、マニュアルに対する理解の普及を図っています。</p> <p>マニュアルやBCPなどは、実態に即したのものになるよう定期的に見直しを図っています</p> <p>業務水準の向上を図るため、運営規程・職員マニュアル・BCPなどについては実態に即したのものになるよう、リーダー層で定期的に検討し、見直しを図っています。職員の声を受けて「散歩時の人数確認の方法」について見直し、「お散歩チェック表」を新たに導入し、安全面の向上を図りました。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ-4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当		
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当		
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当		
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当		
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当		
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当		
評価項目1の講評				
<p>子どもが主体的かつ落ち着いて遊びこめるような環境整備をしています</p> <p>各クラスには生活目的に応じた、食事・着替え・午睡のコーナーや、遊びに応じた制作・ままごと・絵本・ぬりえ・折り紙などのコーナーを設けています。また、室内には、自由画帳・粘土・色鉛筆のほか、制作コーナーにはさまざまな教材を設置し、子どもが玩具や教材を自ら選択して使えるようにしています。加えて、子どもたちは主に各クラスで活動していますが、別のクラスや支援室で過ごしたりするなど、自由に行き来できるようにしています。</p> <p>海外文化にふれる機会として、英語教室や献立に世界の料理を取り入れています</p> <p>「年上の子どもに憧れる気持ちや、年下の子どもを思いやる優しい気持ちを育む」ことを目的に、朝夕の合同保育や行事の中で異年齢での活動を行っています。また、幼児クラスでは日常的に合同で過ごしています。一方、海外の文化に親しむことが出来るよう、ネイティブ講師による英語教室をはじめ、世界の料理を献立に取り入れたり、絵本・玩具・地球儀などを用意したりしています。そのほか、日本の文化・伝承にふれる機会として餅つきなどを行っています。</p> <p>配慮が必要な子どもに寄り添えるよう職員を加配しつつ、専門機関と連携しています</p> <p>特別な配慮が必要となる子どもがいる場合、保育士を基準以上に配置するとともに、パーソナルスペースを確保するなど環境を整えています。あわせて、子ども発達センターなどの専門機関と連携し、適切な指導を心がけています。子ども同士のトラブルが生じた際は、可能な限り見守り、発達の過程で生じるかみつきなどについては、スペースを確保するなど、予防に努めています。事故や怪我が発生した際は、インシデントメモや報告書を作成し、乳児会議・幼児会議・非常勤会議・月案会議などの場で再発防止策を検討しています。</p>				

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

子どもの様子を対面で伝えるほか、ホームページや活動報告を掲示し、共有しています

登園時には体温・咳・鼻水・排便などの体調やケガの有無などを保護者へ確認し、必要な情報を朝礼ノート・伝達表・保育アプリ・ホワイトボードに記録して職員間で引き継いでいます。0・1・2歳児クラスではバインダー形式の連絡帳を活用し、その日の睡眠・食事・排便などの健康状態やエピソードを記載しています。また、降園時には健康状態のほか、当日のエピソードを対話で伝えています。加えて、ホームページの保護者用ページや、ドキュメンテーションによる活動報告を園内に掲示し、子どもの様子や園の取り組みを共有しています。

基本的な生活習慣を身につけることができるよう、具体的な指導方法を設定しています

子どもの発達段階に応じた支援の方法を保育マニュアルや年間指導計画などに示しています。具体的な取り組みとして食事指導では、箸を導入する前段階として2歳児クラスからトングや箸を使った遊びを取り入れています。排泄指導としては、個々の発達に合わせ、おまるを使用しています。着替え指導では、ボタンの付け外しの練習ができる玩具を用意するとともに、着脱の際に服の畳み方などを指導しています。そのほか、虫歯予防教室を実施し、歯磨きが習慣付くようにしています。

午睡時間は一人ひとりの生活リズムや年齢、活動内容などにより柔軟に対応しています

午睡は、子ども一人ひとりの生活リズムや年齢、活動時間によって柔軟に対応しています。デイリープログラムでは乳児の午睡時間を12時から15時、幼児は13時から15時で設定しています。午睡の際は、通気性やクッション性に優れた敷布団・タオルケットなどの寝具を使用しています。なお、午睡時間に眠れない・眠りたくない子がいた場合は、身体を休めることの大切さを伝えつつ、少し早めに起きて絵本を読んだり、空いている部屋などで過ごしたりできるようにしています。なお、5歳児クラスは就学に向けて3月頃から午睡をなくしています。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

行事の内容は子ども同士で話し合い、主体性が発揮できるように促しています

子どもの集団活動として、体操指導・英語教室・和太鼓指導を行っています。また、夕涼み会・運動会・こども会などの行事では、事前に子どもたちで話し合い、演目や内容などを決めていきます。その際、職員は、子どもたち全員が発言できるようにするとともに、可能な限り子どもたちの意見を取り入れられるように配慮しています。そのほか、朝の会・帰りの会・ミーティングタイムでは、約束事の確認をするなど、子どもが自分の気持ちを調整できる力を身に付けられるようにしています。

粘土・折り紙・廃材制作などでは、イメージを豊かにし自由な表現を楽しんでいます

子どもが言葉に興味を持てるよう、乳児期には、応答的な関わりを心がけるとともに、言葉以外の表出に対して言葉を添えるようにしています。幼児については、ミーティングタイムなどの機会を通して、自分の意見を発表する場を設けています。美しさなどに対する感性を育む機会として、戸外での自然物とのふれあいや、クレヨン・色鉛筆・絵具を利用した写生・作画を行っています。感じたことや考えたことを表現する力を育む機会として、ダンス・ペーパーサート遊びや、粘土・積み木・ブロック・折り紙・廃材を使った造形活動などを取り入れています。

園庭や広場では固定遊具や三輪車などで遊ぶほか、畑では野菜を栽培しています

園庭や広場では、鉄棒やうんていなどの固定遊具のほか、ボール・縄跳び・三輪車・フラフープなどで体を動かして活動しています。また、散歩に週3程度度出掛け、公園・商店街・駅・コミュニティセンターなどを訪れています。散歩先では遊具で遊んだり、ドングリや葉っぱなどの自然物を探したり、季節の装飾や電車を見たりしながら過ごしています。広場の一面にある畑ではニンジンやホウレンソウなど季節の野菜を育てています。さらに、保育室ではカタツムリ・カブトムシ・クワガタ・蝶の幼虫などを飼育し、成長を見守っています。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>運動会やこども会(生活発表会)では子どもの意見を取り入れながら取り組んでいます</p> <p>季節や文化・伝承に親しむ機会として、七夕・お月見・ハロウィン・お楽しみクリスマス会・正月遊び・節分・お楽しみひなまつり会などを行っています。また、子どもの成長や保育の成果を発表する機会としては、和太鼓発表・運動会・こども会を行っています。遠足・お店屋さんごっこ・夕涼み会・運動会・お泊り保育・こども会などの行事については、子どもの意見を取り入れ行事への興味や関心を高めるとともに、皆で協力しやり遂げることの喜びを味わえるようにしています。特にお店屋さんごっこやお泊り保育は、5歳児が主導で取り組んでいます。</p> <p>保護者に対しアンケートを実施し、次開催の内容や実施方法を見直しています</p> <p>保護者の参加や協力を得られるよう、年間行事予定表を在園児には3月、新入園児は4月に配布しています。保護者が参加したり見学したりする行事として、親子親睦会・夕涼み会・運動会・こども会を開催するとともに、保護者が参加しない活動についても写真やドキュメンテーションで様子を伝えています。夕涼み会・運動会・こども会などについては行事のおたよりを発行し、その中でねらいを伝えています。なお、親子親睦会・夕涼み会・運動会・こども会は、行事後にアンケートを実施し、保護者の声を受けとめつつ次年度の見直しにつなげています。</p> <p>誕生日当日にお祝いし、写真・手形・メッセージが入ったカードをプレゼントしています</p> <p>誕生日会は各クラスで、誕生日当日にお祝いをしています。内容は各クラスごとに工夫し、歌やインタビューなどのプログラムで楽しめるようにしています。また、子どもの写真・手形・担任からのメッセージが添えられた職員手作りの誕生日カードをプレゼントしています。加えて、誕生日児が主役になって喜びを感じられるよう、当日は王冠を被って過ごしています。給食は月に一度スペシャルデーとしてランチプレートで提供し、その月の誕生日児をお祝いをしています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>室内にはちゃぶ台やソファを設置し、子どもが落ち着いて過ごせるようにしています</p> <p>子どもが安心してくつろげるよう、園内は木を基調とした落ち着いた色合いで統一し、照明も明るすぎないようにしています。また、室内は常に整理整頓しつつ、キャラクターなどを用いた華やかな装飾をしないよう心がけています。加えて、室内にはちゃぶ台や手作りのソファを設置し、子どもが落ち着けるような環境づくりを行うとともに、一人ひとりに寄り添えるよう基準以上に職員を配置しています。なお、子どもが疲れた際には絵本コーナーなどで身体を休めることができるようにしています。</p> <p>延長保育時は、子どもたちの年齢の幅を考慮して落ち着いて過ごせるようにしています</p> <p>18時から19時の延長保育時間帯は、2歳児室を使用して合同保育を行い、専任の非常勤職員を配置しています。子どもが落ち着いて過ごせるよう、粘土やカードゲームなどの延長保育専用の玩具を用意するとともに、日中に作っていた制作の続きをするなど、机上遊びを中心に遊べるようにしています。また、特に0歳児には、1対1でゆったりと関わることで、子どもが安心できるよう努めています。補食を提供する際は、家庭での夕食に支障がない程度のビスケットやクラッカーを提供しています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

食事の席は固定せず、好きな席で楽しく食べられるようにしています
 食事は、各保育室において5人1組のテーブルで食べています。席は固定せず、自由に座れるようにしています。また、日によって5人で1テーブルを囲んでみたり、長く配列したりしながら、楽しく食事ができるように工夫しています。加えて、職員は苦手な食材については無理強いせず、一緒に食べながら寄り添っています。

食事を提供する際は、食材の大きさ・量・皿の種類などを年齢に合わせて変えています
 献立には旬の食材を取り入れ、季節を感じられるようにしています。給食室の職員は毎日保育室に赴き喫食状況を確認しています。食材の大きさや量は年齢によって変え、食器は、乳児についてはメラミン食器を、幼児については陶器を使用しています。そのほか、行事食として、誕生日会にあわせてランチプレートを使用したスペシャルメニューを提供しています。食物アレルギーのある子どもについては、代替食・除去食を提供しています。調理・配膳の際には食物アレルギー対応マニュアルに沿って環境を徹底し、誤食の防止に取り組んでいます。

野菜の栽培や調理体験などを通じて、食に対する関心を深めています
 「食べ物に興味を持ち楽しく食べる子ども」を食育活動の目標としています。畑では、ナス・ピーマン・ジャガイモ・白菜・レタス・人参などを栽培し、収穫した野菜をピザ・カレー・味噌汁などにしています。行事の際は食材を見せながら、その由来や食文化を伝え、幼児クラスでは三色食品群のボードを使用して栄養に関する知識や関心を深めています。また、1歳児からきのこと裂きなどを経験をし、3・4歳児ではおにぎり・スイートポテトづくり、5歳児はホットケーキ・クッキーづくりも体験しています。そのほか、児童館と連携し焼き芋をつくっています。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

避難訓練を月例で実施するほか、警察署の協力のもと交通安全教室を行っています
 子どもが自身の健康や安全に関心を持てるよう、火災・地震を想定した避難訓練を月例で行っています。訓練は毎回予告なしで行うとともに、防災頭巾の被り方や約束事などを確認しています。また、警察署と連携して交通安全教室を実施し、交通ルールを学んでいます。散歩の際にも約束事や横断の仕方などを確認し、子どもの自身の意識を高めています。健康指導では看護師より、手洗い・うがい・鼻かみ・咳エチケットなどを行い、歯磨き指導については、保健所主催のむし歯予防教室に参加しています。防犯訓練は職員のみで行いリスク管理に努めています。

医療機関と連携し定期健康診断を行い、園児の健康管理に努めています
 子どもの健康状態を把握するため、内科医による健康診断を0歳児は年4回、1歳児以上は年2回行っています。また、歯科医による歯科検診も年1回行っています。与薬については基本的に行っていませんが、熱性けいれん・食物アレルギーなどがある場合は「抗けいれん剤薬処方状況使用関連確認書」「薬の依頼書」「アレルギー管理指導表」の提出とともに薬を預かるようにしています。医療的ケアを必要とする子どもについては、主治医と連携を取りながら受け入れることとしています。

保護者に保健情報を提供するとともに、職員は感染対策やSIDSの予防に努めています
 保護者と連携して子どもの健康維持に取り組むため、毎月保健だよりを発行し、健康に関するコラムや感染状況などを伝えていきます。また、看護師は入園説明会や保護者会に出席し、感染症やSIDSについて周知しています。感染症が発生した場合は、該当クラスへメール配信するとともに、掲示により全クラスの保護者に情報提供しています。一方、職員は新入職員保健研修・嘔吐処理研修・アレルギー研修・エビデン研修・事故例検証研修などに参加しています。SIDS対策では、視診や触診のほかベビーセンサーを併用し午睡チェック表に記録しています。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

行事アンケートや面談により、サービスに係る保護者のニーズを確認しています

保護者に対し、「意向を受け止め、子どもと保護者の安定に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性を活かして、その援助にあたる」ことを基本方針として対応しています。職員にその理解と浸透を図るため、年度当初の会議で確認するとともに、園内研修を実施しています。また、保護者の子育てや就労等の事情に配慮して支援を行うため、個人面談で子育てに関する意向を把握するとともに、行事アンケート・連絡帳などにより、日常的なサービスに係る保護者の意向を確認しています。

「パパ&ママのティータイム」を月1回開催し、保護者同士が交流する機会にしています

保育参加・保育参観を随時、保護者会・個別面談を年2回ずつ実施しています。保護者会では映像や写真を見せ、子どもの様子を共有しています。加えて、保護者会後は懇談の時間を設けて、テーマを決めて話をしています。また、今年度より月1回、お迎え前の時間帯に「パパ&ママのティータイム」を開催しています。職員も同席し、子育ての悩みから雑談まで幅広い内容で話をしながら保護者同士の交流を図るとともに、保護者と職員の信頼関係を深めています。そのほか、園内には職員紹介の写真を掲示し、父母会の活動には会場を提供し支援しています。

個人面談や懇談会では、子どもの発達などについて情報交換する時間を設けています

子どもの発達や保護者の子育てについて互いの理解を深めるため、懇談会では、「発達について」「イヤイヤ期について」など各クラスの様子に合わせたテーマで情報交換を行っています。その際、担任はファミリーテーターとしてサポートしています。また、保育士体験や保育参加を通して、保護者の養育力の向上を図り、安心して子育てができるように支援しています。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

散歩や地域の行事を通じ、子どもが地域社会や住民との交流を図れるようにしています

地域資源を活用した体験や交流の機会として、散歩の際に地域の商店街や消防署などを訪れています。また、コミュニティセンターのテラスや、雨の日には児童館で遊ばせてもらうこともあります。そのほか、児童館のお祭りや、近隣の小学校で行われる秋祭りに参加しています。秋祭りでは、5歳児が和太鼓を披露する機会を設けています。そのほか、児童館と連携して焼き芋をつくらしたり、「火の教室」に参加し、児童館職員の指導のもと、火おこしの体験をしたりしています。

実習生やボランティアを受け入れ、子どもが職員以外の人と関わる機会を設けています

夏祭り・運動会・ミニコンサートなどの園行事に地域の親子を招待し、一緒にお店を回ったり、競技に参加したりしています。また、保育実習生・小中高生ボランティア・絵本の読み聞かせボランティアなどを受け入れています。そのほか、大学生のインターンシップや公立学校の教員による研修の受け入れも行っています。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	行事では事前に子どもたちで話し合い、演目や内容などを決めています	
内容①	子どもの集団活動として、体操指導・英語教室・和太鼓指導などを取り入れています。4・5歳児を対象とした英語教室は、ネイティブの講師が担当し、楽しみながら異文化にふれられるようにしています。また、夕涼み会・運動会・こども会などの行事では、事前に子どもたちで話し合い、演目や内容などを決めています。その際、職員は、子どもたち全員が発言できるように援助するとともに、可能な限り子どもたちの意見を取り入れられるように配慮しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル②	一時保育や園開放など地域の親子を対象とした子育て支援事業に取り組んでいます	
内容②	子育て支援事業「わいわい広場」と「さくらんぼ組保育」を実施しています。「わいわい広場」は、子育ての不安解消と孤立化の防止のため、地域の親子を対象に園のスペースを開放しています。毎週月・火・木・金の8時30分から11時まで、親子体操・ベビーマッサージ・離乳食講座・おしゃべり広場・ミニコンサート・お話し会・おもちゃの図書館なども企画しています。また、11時から11時30分は「なかよし広場」で園庭開放を行っています。そのほか、「さくらんぼ組保育（一時保育）」を実施するなど、地域の子育て支援を充実させています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	なかよし広場を使って思い切り体を動かしたり、野菜の栽培に取り組んだりしています	
内容③	敷地内の園庭に加え、道路を挟んだ向かい側には「なかよし広場」があり、ミニアスレチック・うんてい・鉄棒などの固定遊具や、三輪車、ボール遊びなどを思い切り楽しむことができます。また、広場の一角には畑を整備し、ナス・ピーマン・トマト・さつまいも・じゃがいも・白菜・レタス・ホウレン草などの野菜を季節にあわせて育てています。栽培する野菜の種類は、子ども同士で話し合っ決めてるとともに、収穫した野菜は給食やクッキングで取り入れています。そのほか、地域と協働して、もちつきや焼きいもを行うなど、食に対する関心を高めています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	幼児クラスでは話し合いを設け、行事の内容を決めるなど、子どもの主体性が発揮できるようにしています
	内容	幼児クラスでは話し合いを設けて、遠足・お店屋さんごっこ・夕涼み会・運動会・お泊り保育・こども会などの行事の内容を話し合っています。その際、子どもの意見を取り入れ行事への興味や関心を高めるとともに、皆で協力しやり遂げることの喜びを味わえるようにしています。そして、職員は子どもたち全員が発言できるようにするとともに、可能な限り子どもたちの意見を取り入れられるように配慮しています。このように、日々の保育や行事への取り組みを通じ、子どもの主体性が発揮できるようにしています。
2	タイトル	新たに「パパ&ママのティータイム」の取り組みを開始し、お迎え前の時間帯にお茶を飲みながら団らんする場を設けています
	内容	今年度10月より「パパ&ママのティータイム」の取り組みを開始しました。玄関横のスペースを活用し、お迎え前の時間帯にお茶を飲みながら団らんする場を設けています。子育ての悩みから雑談まで幅広い内容で会話をしています。年に2回実施している個別面談とは異なる雰囲気でお話することができ、保護者から好評を得ています。なお、この時間は子どもを無料で預かるようにし、保護者が安心して参加できるようにしています。この取り組みを通じて、職員と保護者との信頼関係の醸成や保護者同士の交流につなげています。
3	タイトル	休憩室の改修や時間単位の有給を導入するとともに、希望する研修を受講できるようにするなど、職員の意欲や働きがいの向上に努めています
	内容	職員が安心して働き続けられるように、市の勤労者互助会や宿舍借り上げ制度に加え、親睦会などを福利厚生として取り入れています。また、職員休憩室の改修や時間単位の年次有給休暇制度を新たに導入しています。そのほか、職員のやりがい向上を目的として、年1回職員の希望する研修を受講できるようにしています。職員自己評価の設問「意欲と働きがいを持つことができているか」「良好な人間関係が構築されていますか」では、一般職員の「そう思う」の回答率が、それぞれ80%を超えており、取り組みの成果が確認されました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	SNSなどを活用し、園の取り組みなどをリアルタイムに発信することで、園児の獲得にもつなげていくことができると考えられます
	内容	ホームページには、「保育の様子・行事カレンダー・保護者のページ・子育て広場・一時保育」などのコンテンツを設けています。利用者に向けて、園での子どもの様子を知らせるために「保護者のページ」を毎日更新しています。ただし、地域住民や入園希望者に向けた情報を発信する仕組みについて、見直す余地があると思われま。今後はSNSなどを活用し、園の取り組みや活動の様子などをリアルタイムに発信することで、園児の獲得にもつなげていくことができると考えられます。
2	タイトル	インシデントやヒヤリハットに対する職員の意識向上を図り、報告件数を増やすことで、事故や怪我の防止に努めていきたいと考えています
	内容	園内危険個所の探索や約束ごとの確認を行うことで、事故・怪我の防止につなげています。また、インシデントやヒヤリハットに該当する内容があれば、乳児・幼児クラスごとに、伝達表を作って職員間で共有しています。一方で、インシデントやヒヤリハットの報告件数が少ないことを課題として捉えています。そこで、会議や研修などで報告の必要性を伝えることで職員の意識向上を図ろうとしています。あわせて、報告書の様式を簡素化することで、作成の手間を軽減できるものと思われま。
3	タイトル	職員と共に振り返りや課題の抽出を行うとともに、計画策定まで一連のプロセスを行うことで、職員との共有が図られるものと思われま
	内容	長期の事業計画を理事長・園長を中心に作成しています。また、単年度の計画は園長を中心に作成し、職員会議などで職員へ伝えていきます。計画には保育に加えて、子育て支援・研修・修繕・災害対策・保護者支援・地域連携などの項目ごとに内容が記されています。一方で職員自己評価の設問「取り組み期間に応じた計画の策定」において、「そう思う」の回答率が一般職では各項目で4割以下でした。職員と共に振り返りや課題の抽出を行うとともに、次年度の計画策定まで一連のプロセスを行うことで、職員との共有が図られるものと思われま。